

元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯 (2001)

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 日本

時間 140分

初公開日 2002/03/23

公開情報 岩波ホール

【解説】

1886年（明治19年）に生まれ、弱冠25歳にして初の女性による文芸誌『青鞥』を創刊し、以来85歳でこの世を去るまでその人生のほとんどを女性解放運動に捧げた女性活動家・平塚らいてうの生涯を追ったドキュメンタリー。監督は「安心して老いるために」「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」の羽田澄子。

戦争の世紀と呼ばれた20世紀は、一方では、人権に対する意識が世界的に高まりをみせ、なかでも女性の社会進出が進み、それに伴って女性がさまざまな権利を獲得していった時代でもあった。明治政府が発足し、日本でもそうした女性解放の萌芽がかすかに見え始めた頃の明治19年に、平塚らいてうはこの世に生まれた。そして大きな時代のうねりの中で1911年、日本で初めて女性だけの手による文芸誌『青鞥』を発刊する。らいてう25歳の時であった。そして発刊に際して「元始、女性は太陽であった」と記し、ここに高らかに女性の自立を宣言したのだった。

【クレジット】

監督 羽田澄子

製作 青木生子

撮影 宗田喜久松

美術 星奈恵子

音楽 湯浅譲二

録音 滝澤修

語り 喜多道枝

照明 渡辺勝利

出演 平塚らいてう